

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
 領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
 評価用研究成果報告書

課題		テクノロジーの革新と日本的美学および感性			
研究テーマ名		「響き合う空間、励起される美意識」 ～日本庭園空間体験の音表現化の試みを通して～			
研究代表者	所属機関	東京藝術大学			
	部局	美術学部			
	役職	教授	氏名	古川 聖	
委託研究費		単位：千円			
平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度		
2,925	3,919	4,179	2,064		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、研究成果やその波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

研究目的:本研究は私たちを取り巻く、都市空間、庭園などの美的空間、公園など（採択時点で審査にあられた領域開拓部会の委員の方々より、日本庭園空間にかぎらず、広く対象を設定するようにご提案をいただき、研究対象を広げた）への身体と音による美的介入を通して、生活空間と表現を結びつけ、風景、空間を同時に楽しむ感性を育み、アートの視点から、それらの中に新しい美的な意味を発見することを目指す。私たちを取り巻く美しい自然、公園、文化的美的遺産などを単に受け身で楽しむというアティテュードを超え、新しい方法でそれらに接し、表現行為、つまり感性を通して、場所や歴史との深い身体的関わりを生みだそうとするものである。そのために異なった領域の専門家である研究者たちが集まり、人と人のコミュニケーションを通じた表現行為から生まれる新しい美意識の探求が行われた。

研究内容:研究は”サウンドドローイングプロジェクト”という、表現行為（パフォーマンス）とワークショップを組み合わせた、4回のワークショップを軸に組み立てられ、準備段階では類似形式でのパフォーマンスなどの調査を行った後、現在までに2回のワークショップが行われた。それとともにそのパフォーマンスのための創作楽器の制作、研究が行われ、二つの特徴を持った楽器が制作された。また、”サウンドドローイングプロジェクト”のサブプロジェクトとしてGPSなどのあたらしいテクノロジーを用いた”ソニックウォークプロジェクト”が2019年度に加わり、二つのプロジェクトは並行して行われている。

研究成果:研究を通して、現時点での結論のようなものは以下の2点である。a) これからの観光なり観賞なりにおいて、それが風景や庭園、都市空間のようなものであれ、それを単に外側から美的対象物、または名跡として観察するのではなく、人がなんらかの形でその空間と結びつき、比喩的にも実際的にも体験する人が入ってゆけるような形式が求められてことが強く感じられた。そのことにより、自分の外にある風景、都市、過去の文化と自分との結びつき、そして他者との結びつきを深く感じ、自己の全体性の確認のようなことも行われる。b) しかし、それは単に形式の問題だけではなく、それに関わる私たち意識の問題でもあり、この意識のありようの研究が必要であること。つまり、私たちが無意識に前提としている、鑑賞者と表現、表現者を分ける私たちの文化的習慣、意識への変革の可能性へも目を向ける必要があること。

波及効果、発表など:研究の進行にコロナ禍が落とした影は大きく、ワークショップの中止、延期の他、国外での発表等も遅延しており、特に本研究の骨組みをなす、人が集合して行うパフォーマンスやこれまで当たり前の事として行ってきた対面型のワークショップなどを対面型とオンラインを組み合わせる方法へと変更している（学術振興会の許可を得ている）。年度末までには残りの2回のワークショップを行い、予定されている研究を総括するシンポジウム、展覧会、冊子の印刷を行う。